

六本木から歩いて数分、大通りから路地を折れて間もなく、クラブ「bless」を見つける。予定時刻の9時をかなり遅れて開場するが、まだ人はまばらだ。奥にはゲズブルの写真が飾られ、線香代わりのお香と縁りの品々（CD、お酒、キャベツなど）が供えられた仮設の祭壇があり、自由に参拝できるようになっている。

ジェーン・バーキンの新譜をBGMに、しばしの歓談タイム。思い思いの時間を過ごしている間にも続々と人が集まり、気がつくともフロアはほぼ埋っていた。

10時半頃、サエキけんぞうさんの挨拶でスタート。

ステージも客席もないフラットな会場だったため、お客さんはその周りを囲むように床に座る。

そしてまずは、永瀧達治さんと立川直樹さんによるトーク。生前の彼にまつわるエピソードを中心に、興味深い話を聞く。ドラッグのこと（マリファナを好んでいたとか）、躁鬱気味だったこと、「フランスの音楽はみんなクソだ！」と言いながら昔のシャンソンについてはとても詳しく、好きな仕事をするために芸能っぽい仕事でお金を稼いでいたこと……。

伝説上の人物になりつつあるゲズブルだが、親交のあったお二人の口から出る言葉は、ことのほか生々しく感じられた。

次に立川さんと入れ替わって招かれたのは、タレントの加藤紀子さん。永瀧さんがゲズブルの印象を尋ねると、「会って話して融けたかったなあって思います。プロデュースもしてほしかったですね」とのこと。そして5月発売予定の新アルバムから、リリキューブの曲に加藤さんが作詞した『明るい光』をできたてのデモテープで聴いた。

トークが一段落し、いよいよかしぶちさんの登場だ。

黒の衣装を纏い、無精髭をたくわえた姿は一見無頼風。しかし気品が漂っているのは相変わらずで、実に渋い。

「こんばんは。まず挨拶がわりに一曲聴いてください」

この夜にふさわしい、耽美な世界が広がる『冬のバラ』。ギターの弾き語りで囁くように歌った。そして、

「今日のために即席にバンドを結成しました」

と、前日にできたばかりの“メロディ・ネルソンス”が紹介された。メンバーはかしぶちさんのほか、公私に渡って長年のお友だちである関口直人さんと床鍋剛彦さんの3人。お二人は早稲田大学シャンソン研究会のOBで、かしぶちさんとはフランス系のものを聴き合う仲という。また床鍋さんは、かしぶちさんのフランス語のアドバイザーでもある方で、作詞、訳詞なども手がけている（『Fin』他にもクレジット）

「“MELODY NELSONS”という名前だと70年代に入ってからゲンズブルですが、僕が出会ったのは60年代です。先程、彼が金になる仕事と本当にやりたい仕事とを分けていたという話がありましたが、これからやる曲はどちらかということにならなかった方の曲だと思います」(関口)

“メロディ・ネルソンス”による1曲目は、ジュリエット・グレコでお馴染みの『アコーディオン』(関口ソロ G & Vo)。

「グレコにはアコーディオンでいいと思うんですが、ゲンズブルの場合、アコーディオンをアルコールに置き換えるとぴったりくると思います」(関口)

オリジナルは、いつも連れ添ったアコーディオンに対する愛しさ、それが壊れてしまった悲しさを歌ったものだ。しかしここでは愛しさの対象はアルコールに、壊れた悲しさは天逝したゲンズブルへの想いに重ねられ、切なく胸に響いた。

続いて、

ゲンズブルのデビュー曲『リラの門の切符切り』(関口 G、床鍋 Vo、かしぶちボンゴ)

「これはリラの門という地下鉄の駅の切符切りの歌です。たぶんお若い方の中には知らない方もいらしたのではないかと思います(笑)」(床鍋)

関口さんといい床鍋さんといい、さすがシャンソン研出身、その堂々たる歌いっぷりに、各曲のモチベーションの高さを再認識させられた。残念だったのは、照明がとにかく暗く、床鍋さんにいたってはシルエットしか見えなかったことだ。

かしぶちさんの

「これを機にまたやりましょうね！」

という言葉に、思わず今後の活動を強く期待してしまう。

4曲目から再びかしぶちさんのソロ。この日唯一カラオケをバックに歌ったこの曲は、アンニュイな詞とメロディーから馴染みのある曲と錯覚しかけたものの、おそらく初めて聴く曲でタイトルも判らなかった（後のセルフ・レポートにより、石田純一氏に提供した『詩人の宝石』と判明）。

5曲目の『S.E.X.』を歌い終えて、

「この曲のタイトルはね・・・」

と言いかけるのと同時に聞こえてきたのは、近日CD発売が決まった岡田有希子さんの『花のイマージュ』。

「この曲！なんだ、これは・・・(笑)！？」

と驚くかしぶちさん。

そこで仕掛け人のサエキさんが登場。

サエキ「今日はこの曲、特別に手に入れてきたんですよ」

かしぶち「やるねえ、さすが！」

サエキ「この曲はですね、岡田有希子ちゃんの最後の曲、未発表のシングルで、かしぶち哲郎さんの作詞作曲編曲ですね」

かしぶち「全部やったんだよねえ」

サエキ「これ、今度出ることになったんですよね？」

かしぶち「そう、3月に・・・じゃあプロモーションを兼ねて・・・  
気持ちゲンズブル風に歌ってみようかな、せっかくだから（笑）」

ということで、

『花のイメージ』かしぶち弾き語りバージョンを聴くことができた。ポップな岡田有希子さんバージョンでは判りづらかったが、そのメロディアスでしっとりとした印象は、まさにかしぶち楽曲そのもの。

最後はお馴染み『Frou Frou』で盛り上がり、大きな拍手に包まれて退場した。いつもとちょっと違ったなごやかな（というよりガヤガヤうるさかったが（笑））雰囲気の中、終始リラックスした余裕のかしぶちさんと“メロディ・ネルソンス”。セルジュ・ゲンズブルを偲ぶこのイベントにふさわしく、フレンチな香りと華を添えていた。この後には僧侶でもあるバカボン鈴木さんの読経なども予定されていたが、私は日比谷線最終電車に滑り込むべく、後ろ髪をひかれながら会場を後にした。

HP掲載にあたり、オリジナル原稿から改行位置を変更させて頂きました。

（初稿 1999.4.26 UP「櫛の会」管理人 KRAFT.WARTZ）